



福祉の現場を訪ねて

障害者生活支援センター ともいきの実践

埼玉県
川越市

現在、障害者の地域生活への移行の推進が図られています。しかし、障害者にとって地域で暮らしていくためには、相談やマネジメント体制の整備が不可欠です。そこで今回は、障害者ケアプランの作成など試行的な取り組みもおこなっている障害者生活支援センターともいきの相談スーパーバイザー菊本圭一さんにインタビューしました。

■ 相談事業について教えてください。

センターには187名の登録者がいます。2004年度は、前年度より2割増えて、1,054件の相談がありました。365日、24時間の相談を川越身体障害者センターの協力を得ながら、2人のコーディネーターと身体、聴覚、視覚のピアカウンセラーにスーパーバイザーというスタッフで対応しています。

センターでは本来、川越市内の身体障害者が対象ですが、川越市では身体・精神・知的の三障害の総合相談サービスを設けていて、相談を一本化できることを特徴としています。従って、マッチングが出来れば、精神や知的の相談もここで受けられます。

寄せられた相談で多いのは、福祉サービスの利用援助や社会資源を活用するための支援です。ここに来る相談は、離婚、住宅、財産問題など複雑な事情を抱えていることが多く対応に時間がかかることもあります。

■ 理学療法士(PT)、言語聴覚士(ST)のスタッフの役割は

利用者の現状を考えると相談を待っているだけではなく、地域に出ていくことが求められていると思います。地域に暮らす障害者の中には、まだまだ自分から相談にこない、こられない方も多いためです。センターでは市内の保健センターへの巡回や家庭訪問をおこないます。PTは住宅改修のアドバイス、STは地域の「コトバの会」の手伝いなど、地域に出かけて活躍してもらっています。

■ 相談事業の役割は

日常生活に困っている方たちのバリアを発見し、それ



どんな相談にも対応できるよう、スキルアップを目指しています。



車椅子や自助具等が展示されている。手に触れて試せるだけでなく、購入や修理の申請もここで手伝ってもらえるのが好評です。

を取り除くということじゃないでしょうか。こういう相談事業というものは、普段はわかりませんが、自分が困ったときに初めてその存在を知り訪ねてくるわけです。その時にいかに同じ生活者としての視点を持って相談をおこなえるかどうかです。また、利用者の立場に立って物事を考え、言葉には出てこない気持ちを探ることが相談では最も重要なことです。

■ 利用者のためのケアマネジメントもされていますね

支援費制度が始まった2003年度は、行政から必要なサービス量を測るための相談も多くありました。その都度、ケアプランを作成し81名を数えましたが、2004年度には支給の目安ができたのか54名でした。現在、センターでは必要に応じて利用者にあわせたケア計画を作成し、市に提出して支給量決定の参考にしていただくこともあります。

地域に散在するサービスを障害者本人の生活ニーズに基づいて総合的に提供するには、障害者ケアマネジメントが必要になります。今後も障害者の地域生活を支援していくためには、この考え方を普及させ、一機関、一事業所、一担当者で抱え込まないことです。

■ ここには福祉機器も展示されていますね

支援センターでこのような福祉機器の展示があるところは少ないと思います。

実際に見て試せるのでショールーム的な効果もあり、購入を考えている利用者や家族だけでなく学生の体験学習にも利用されています。

しかしそれ以上に好評なのは、ここで機器購入などの手続きの一部を手伝ってもらえることです。例えばデイサービスの利用者が車いすのタイヤが減ったとか装具が壊れたという時に、わざわざ市役所まで出かけなくても、センターで申請書類の書き方や市への提出の手伝いを依頼することができるので利用者大変喜ばれています。

■ 福祉機器について利用者からはどんな反応がありますか

最近、相談が多いもののひとつに電動ベッドがありますが、買ったなら40万円以上もします。これではなかなか購入できません。障害の状況などによっては公的な補助が受けられますが、それでも自己負担が20万円以上になります。そこで便利なのがリサイクル製品です。介護保険が始まってから、レンタル用品をリサイクルして安価で提供する企業等が増え助かっています。

それに、買ってみるといろいろと使いにくい点が出てきます。スロープを買っては見たけど、使わないときに家の中でしまうところがなかったり、電動車椅子を家の中で細かく動かすので壊れ易くなったりします。

今の福祉機器はデザインも機能も非常に多様化し良い傾向だと思いますが、価格やアフターケアも考えて開発を進めていただければ、もっと需要も増えるはずですよ。

■ これからの課題は何でしょうか

いろいろありますが、1つはコミュニティが崩れていることでしょうか。地域でも、昔から住んでいる人々は関わり合いがあるのですが、そこにマンションなどが出来ると旧住民と新住民の交流が進まず、近所同士の助け合いなどが難しくなります。コミュニティの機能が崩れていると、地震などの災害が起きたときに障害者や高齢者などの災害弱者といわれる方たちは大変です。今後はコミュニティに入ってこない人たちをどう地域の助け合いの輪の中に参加させるかが大きな課題だと思います。そこにはコミュニティワーカーのような役目をする人が必要で、その在り方や働き方も重要になってきます。

センター概要

「障害者生活支援センターともいき」は、1996年に法人認可された「社会福祉法人ともいき会」によって運営されています。97年に開所した川越身体障害者センターに、ショートステイ、デイサービス事業、通所型療護A型(8月開所予定)などと併設され、99年10月から相談事業を始めました。24時間の相談には、2004年度で1,000件を超える相談が寄せられています。

障害者生活支援センター ともいき
川越身体障害者センター併設
埼玉県川越市笠幡1646-17
TEL.049-239-3688 FAX.049-239-3699
<http://www.tomoiki.com>

